

異常高温継続中

水稻の高温対策を実施しましょう！

対象：8月15日頃までに収穫する水稻

令和5年8月4日
埼玉県農林部

今後の見通し

8月3日気象庁発表の1か月予報では、8月5日から向こう1か月の平均気温は高い確率が60%と予報されています。収穫後20日間の平均気温が27℃を上回ると、白未熟粒の発生する危険性が高まります。

対策

1 葉色確認と穂肥

白未熟粒の発生を軽減するために最も重要な対策は、葉色診断に基づく適期・適量の穂肥の施用です。

基肥+追肥体系でも基肥一発体系でも、穂肥施用②（2回目）の時期（収穫15～10日前）に葉色が4を下回った場合必ずチッソ成分で2kg/10a程度の追肥を行いましょう。

例) 彩のかがやき穂肥施用時期の目安

田植時期	穂肥施用②	緊急穂肥	収穫期予想時期
5月20日	7月29日頃	8月8日頃	8月10日～12日
5月30日	8月4日頃	8月13日頃	8月15日～17日

ここに注目！

特に本年は、異常高温の継続が懸念されます。
遅い追肥は、タンパク質含量が高まるリスクがありますが、
白未熟粒の発生回避の緊急措置として
収穫5日前～収穫期頃の葉色が3.5以下の場合
1～2kg/10aの追肥を行いましょう。

2 水管理

穂肥施用時期～収穫7日後までは湛水状態を保ち、それ以降は間断かん水を行い根の活力維持に努めましょう。また、早期落水は避けてください。

また、かん水は夕方以降に入水を行うことで地温を下げるすることができます。

なお、「かけ流しかん水」は用水不足を招き高温障害を助長しかねないため避けま